

いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手

第174号
令和3年6月号



復興支援10年
ありがとう

三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にし、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

開催

復興五輪、岩手県で聖火リレー開催

令和3年6月16日(水)から18日(金)まで、東京2020オリンピック聖火リレーが岩手県内で行われ、3日間合計62.35kmの道のりを、284名のランナーが聖火でつなぎました。

6月16日(水)、雫石町を出発した聖火は、87名のランナーにより、久慈市文化会館アンバーホールまで運ばれました。途中、普代村から野田村までは、三陸鉄道が聖火を運び、久慈市文化会館アンバーホールでは、聖火到着を祝うセレブレーションが開催され、久慈市内の高校生によるチアダンスなどが披露される中、聖火を出迎えました。



三陸鉄道で運ばれる聖火
(写真提供:東京2020組織委員会)

6月17日(木)は、岩泉町の岩泉高校での出発式の後、東日本大震災津波や台風の被災地がコースとなり、85名のランナーが、震災遺構や防潮堤、復興したまちを駆け抜け、陸前高田市の「アバッセたかた」まで聖火をつなぎました。陸前高田市では、復興の象徴である「奇跡の一本松」からスタートし、ゴールの「アバッセたかた」で開催されたセレブレーションでは、観客が聖火到着を祝いました。



奇跡の一本松をバックに走るランナー
(写真提供:東京2020組織委員会)

6月18日(金)には、平泉町の世界遺産・中尊寺などの県南・県央地域で、112名のランナーが盛岡市まで聖火をつなぎました。新型コロナウイルス感染症対策のため、盛岡市では公道でのリレーは行わず、盛岡八幡宮でランナーがトーチを近づけて聖火を渡す「トーチキス」が無観客で行われ、岩手県での聖火リレーは無事に終了しました。

東京2020オリンピック・パラリンピックは、「復興五輪」として、東日本大震災津波被災地の「復興の姿」

を国内外に発信していく機会です。聖火リレーのトーチには、東日本大震災津波の応急仮設住宅に使われていたアルミサッシの廃材が活用され、復興に向けて進む被災地の姿を世界中に発信しています。更なる「復興への誓い」が、希望郷いわてから世界に届くよう、オール岩手で復興五輪を応援しましょう。



盛岡八幡宮でのセレブレーション(写真提供:東京2020組織委員会)

■問い合わせ

岩手県文化スポーツ部
オリンピック・パラリンピック推進室
☎ 019-629-6496

岩手県内の東京2020オリンピック・パラリンピック関連情報はこちら➡



1日目 6月16日(水)

雫石町→滝沢市→八幡平市→
岩手町→戸町→二戸市→
洋野町→普代村→野田村→久慈市
セレブレーション/久慈市
(久慈市文化会館アンバーホール)

2日目 6月17日(木)

岩泉町→田野畑村→宮古市→
山田町→大槌町→釜石市→
大船渡市→陸前高田市
セレブレーション/陸前高田市
(アバッセたかた)

3日目 6月18日(金)

一関市→平泉町→奥州市→
金ケ崎町→北上市→花巻市
→遠野市→紫波町→矢巾町
→盛岡市
セレブレーション/盛岡市(盛岡八幡宮)



令和3年3月に
聖火リレーに先立ち
「聖火展示」を行った町村

いわて復興 インデックス 更新

岩手県では、沿岸被災12市町村を中心とした本県の復興の現状や進捗状況をお伝えする「いわて復興インデックス」を3か月に1回更新しています。今回は、令和3年3月31日を基準日とし、5月24日(月)に更新しました。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課 ☎ 019-629-6935

いわて復興インデックスはこちら➡



一般公開

陸前高田市の震災遺構
一般公開開始陸前高田市
RIKUZENTAKATA

令和3年5月1日(土)から、東日本大震災津波の遺構として保存されている陸前高田市の「旧気仙中学校舎」と「旧道の駅高田松原タピック45」が一般公開されました。

「旧気仙中学校舎」は、日頃の学習と防災訓練の結果、犠牲となった方が一人もいなかったことから、「防災教育の重要性を伝える遺構」として、「タピック45」は、今も破壊された姿のまま残されており、「津波の威力を伝える遺構」として位置づけられています。

震災遺構両施設の内部見学には有料ガイドの同行が必要です。道の駅高田松原では市内自転車ツアーでのガイドが、陸前高田市観光物産協会では高田松原復興祈念公園ガイド(通称:パークガイド)が案内します。予約、料金、コースなどは、下記問い合わせ先に直接お問い合わせください。

■問い合わせ

道の駅高田松原

☎ 0192-22-8411

陸前高田市観光物産協会

☎ 0192-54-5011

道の駅高田松原

の市内自転車ガ

イドツアーにつ

いてはこちら➡



高田松原復興祈

念公園ガイドつ

いてはこちら➡



旧気仙中学校舎(写真提供:陸前高田市)

旧道の駅高田松原「タピック45」
(写真提供:陸前高田市)

開催

いわて食の大商談会 2021
開催盛岡市
MORIOKA

令和3年6月7日(月)、東日本大震災津波や新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者の販路開拓のため、本県の食などを広くPRする「いわて食の大商談会2021」が、盛岡市内のホテルで開催されました。

県内最大規模となるこの商談会は、県や金融機関等が毎年主催しており、今回は食品製造業者や農林漁業者など、県内各地から91者が出展し、県内外から訪れた約300名のバイヤーと積極的に商談を行いました。

沿岸被災12市町村からは20者が出展し、事業者が直接自慢の一品のPRを行ったほか、会場入口には水産加工品等をPRする特設コーナーも設けられ、コロナ禍でも新たなマッチングの機会を求め、会場は活気にあふれました。



にぎわう会場の様子

■問い合わせ

岩手県商工労働観光部産業経済交流課

☎ 019-629-5539

つなみ
世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

東日本大震災津波伝承館では、令和3年6月11日(金)から7月11日(日)まで、三陸ジオパーク推進協議会との共催により、令和3年度の第1回企画展示「東日本大震災津波と三陸ジオパーク」を開催しています。

三陸ジオパークは、青森県八戸市から岩手県の沿岸を縦断して宮城県気仙沼市までの南北約220km、東西約80kmにもおよぶ広大なエリアで、「悠久の大地と海と共に生きる」をテーマとして、「繰り返される災害に立ち向かい将来に備える」「地球規模の大地と気候変動から成り立ちを知り、地球を語る」「豊かな資源と人々の暮らしを再生し未来を創る」三陸の姿を後世に伝え、学ぶ地域を目指しています。

企画展示では、三陸ジオパークの視点から、「三陸の大地と海の成り立ち」「三陸の5つの魅力」「三陸各地の震災遺構」を解説するパネルを展示しています。東日本大震災津波を歴史的・科学的視点から、より深く理解いただき、三陸各地の震災遺構にも足を延ばすきっかけにさせていただきたいと思っております。

伝承館では、今後も、東日本大震災津波に関する効果的な学びの場を提供していきます。ぜひ、ご来館ください。

■問い合わせ

東日本大震災津波伝承館 ☎ 0192-47-4455



企画展示

「東日本大震災津波と三陸ジオパーク」
(共催:三陸ジオパーク推進協議会)

開催日時

6/11(金)~7/11(日)9:00~18:00

開催場所

東日本大震災津波伝承館ゾーン4
(道の駅側・地域情報スペース)

企画展示の様子

開始

釜石湾漁船クルーズ 開始

釜石市
KAMAISHI

令和3年5月1日(土)から釜石湾を漁船で巡るクルーズが始まりました。このクルーズは、(株)かまいしDMCが企画したもので、海域をよく知る漁師が案内し、釜石大観音や、世界で最も深い湾口防波堤などを90分かけて巡るコースで、リアス式海岸の魅力が満喫できます。東日本大震災津波で被災し解体された観光船「はまゆり」の代わりとして、10年ぶりに漁船クルーズが復活し、観光の目玉となっています。

クルーズは、魚河岸テラス前から、14時～16時の間に1時間おきで出航します。乗船希望日の2日前までの電話予約制で、料金は小学生以上1人3,800円(未就学児は乗船不可)です。釜石を訪れる機会があれば、ぜひ、ご利用ください。

■問い合わせ 魚河岸テラス ☎0193-27-5566

↓漁船クルーズ詳細はこちら



漁船クルーズの様子(写真提供: ㈱かまいしDMC)

出版

東日本大震災津波からの復興記録誌等を発行

希望郷いわて農業・農村復興への歩み

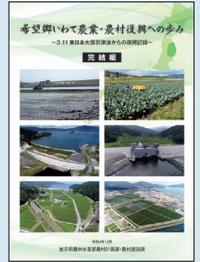
～3.11東日本大震災津波からの復興記録～
東日本大震災津波からの農地・農業用施設の復興の足取りなどを掲載しています(令和3年2月発行)。

■問い合わせ

岩手県農林水産部農村計画課

☎019-629-5666

PDFダウンロードはこちら→



東日本大震災津波 応援職員活動の記録

～応援職員と歩んだ10年～

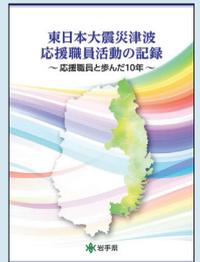
全国からの応援職員、派遣元自治体等の皆様の活動や、被災自治体の市町村長や応援職員の方々のメッセージなどを掲載しています(令和3年3月発行)。

■問い合わせ

岩手県ふるさと振興部市町村課

☎019-629-5230

PDFダウンロードはこちら→



いわて復興の歩み 2011.3-2021.3

東日本大震災津波からの復興の記録

東日本大震災津波からの10年間の復興状況や、これまでの主な取組をまとめて掲載しています(令和3年5月発行)。

■問い合わせ

岩手県復興防災部復興推進課

☎019-629-6945

PDFダウンロードはこちら→



さんりくイベント情報

「いわて旅応援プロジェクト」実施中

岩手県では、令和3年4月16日(金)から8月22日(日)宿泊分までを対象に、旅行・宿泊代金の割引や、土産物店等で利用可能なクーポン券を発行する「いわて旅応援プロジェクト」を実施しています。

このプロジェクトは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制しつつ、感染症の影響により需要が落ち込んでいる観光業や土産物店等を応援するためのもので、岩手県民が対象です。詳細は、ホームページでご確認ください。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を停止することがありますので、ご注意ください。

●問い合わせ 岩手県商工労働観光部
観光・プロモーション室
☎019-629-5574

「いわて旅応援プロジェクト」はこちら→



岩手県立博物館 開館40周年記念特別展

「みる!しる!わかる!三陸再発見」開催中

令和3年6月12日(土)から8月22日(日)まで、岩手県立博物館では、開館40周年記念特別展「みる!しる!わかる!三陸再発見」を開催中です。

東日本大震災津波から10年を迎えた三陸地域の自然と文化の多様な魅力を紹介しています。各地への訪問のきっかけにしながら、薄れがちな防災・減災意識を高めてみませんか。三陸地域の魅力が詰まった特別展に、ぜひ、お越しください。

■場 所

岩手県盛岡市上田
字松屋敷34番地

■開館時間

9:30～16:30
(入館は16:00まで)

■休 館 日

月曜日(月曜日が休日の場合はその翌平日)
※8月2日(月)、9日(月)、16日(月)は臨時開館



●問い合わせ 岩手県立博物館 ☎019-661-2831



大槌町郷土財活用湧水エリア

新たに整備された
希少動植物の
保護区域

「大槌町郷土財活用湧水エリア」は、三陸鉄道大槌駅の東側約1.45haの津波浸水域を活用して大槌町が整備を進めてきた湧水と希少動植物の保護区域です。

「いわてレッドデータブック」でAランク（絶滅の危機にひんしている種）に指定されている希少植物ミズアオイや、湧水の池ごとに多様な遺伝集団が形成されるイトヨが生息しています。

これらの希少動植物が生息するエリア内は、遊歩道やベンチが整備され、古くから地域の生活を支えてきた湧水を身近に感じながら自由に散策することができます。

場所 岩手県上閉伊郡大槌町須賀町地内
問い合わせ 大槌町教育委員会生涯学習課 ☎ 0193-42-2300



自生するミズアオイ
 (写真提供：大槌町教育委員会)

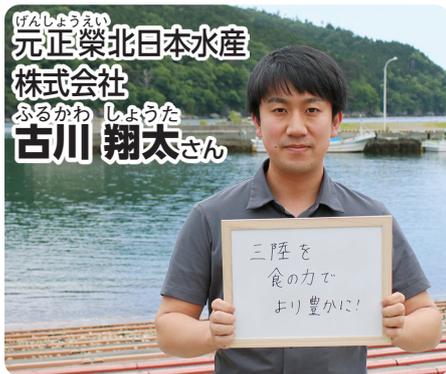


イトヨ
 (写真提供：大槌町教育委員会)



いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介します。第120回は古川翔太さんをご紹介します



～ 三陸を食の力でより豊かに！～

PROFILE

大船渡市出身。県立大船渡高等学校を卒業し、東海大学海洋学部に進学。祖父である古川勝弘さんが創業した完全陸上養殖の「三陸翡翠あわび」を手掛ける元正榮北日本水産株式会社に平成31年に入社した若き3代目。1年目は現場を経験し、現在は事務所を統括しながら営業にも励む。

奇跡のあわびで、次のステージへ

元正榮北日本水産株式会社では、肉厚で成長の早いDNAを持つ、いわばサラブレッドのあわびが育てられています。東日本大震災津波では、工場とともにあわびも流されましたが、祖父の勝弘さんが側溝に張り付いていたあわびを見つけ、奇跡的に貴重なDNAを失わずに済みました。震災当時、古川さんは中学3年生。当時から漠然と家業を継ぐことを考えていましたが、大学での学びを通して、祖父の興した事業の価値を知り、入社を決意しました。

「国内の天然あわびの漁獲量は年々減少しており、養殖あわびの需要はさらに高まることが予想されます。養殖あわびの市場を拡大していくため、今後は、フランチャイズのような形で施設を全国展開してい

たいです」と古川さんは次のステージを見据えます。

新たな販路の開拓に挑戦

昨今のコロナ禍で飲食店などからの注文が減少する中、古川さんは、現在、個人向けの販売に活路を見出そうと奮闘しています。「三陸翡翠あわび」のネーミングでブランディングに取り組み、昨年10月からECサイトの立ち上げも行いました。ブランドの周知に向け、イベントにも積極的に出店しています。「お客様の声を直接お聞きすることで、殻の外し方や調理方法など、お客様の求めていることに気づく機会になりました。どんなに良いものを作っても、お客様に理解していただかなければ届かないのだと実感しています」。三陸翡翠あわびのブランド化に向けて、古川さんの挑戦は続きます。

岩手県の被害状況

令和3年5月31日現在

- 人的被害 死者：5,145人（余震、震災関連死を含む）
 行方不明者：1,111人
- 建物被害（住家のみ、全半壊）26,079棟
 被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

令和3年5月31日現在

- 義援金受付状況 約187億7936万円(98,121件)
- 寄附金受付状況 約202億4417万円(10,977件)
- いわての学び希望基金(※)受付状況 約103億4584万円(25,668件)
 ※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

[いわて震災津波アーカイブ](#)

[検索](#)

